

JESCO 豊田PCB廃棄物処理 事業だより(No.130)

1. 国際会議のサイドイベントにおいて当社の取組を発表しました

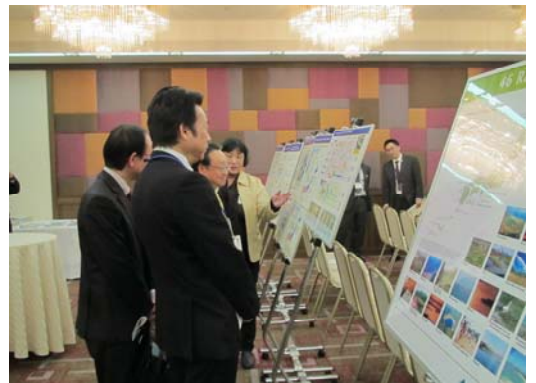
1月15～16日に名鉄トヨタホテルで環境先進都市国際会議(主催:豊田市、国連)が開催されました。「人と環境と技術の融合」をテーマに、持続可能な都市をつくるにはどうすべきか、豊田市の取組や世界の事例をもとに、政府、国際機関、自治体などの代表者が集まり、意見交換や議論が交わされました。

同国際会議において、当社のPCB廃棄物処理の取組について情報発信するため、15日(木)に、パネルを展示するとともに、環境省主催のサイドイベントにおいて発表を行いました。

サイドイベントでは、環境省産業廃棄物課からの「PCB廃棄物の処理について」の発表に続いて、当社から、「JESCOにおけるPCB廃棄物処理の取組について」と題し、当社のPCB処理の体制、処理技術、処理施設における安全対策等について説明しました。

特に、外部漏洩を起こさないための何重もの防護策や地震対策を講じていること、監視委員会で説明するなど事業の透明性を向上させるための様々な努力を重ねていること、過去に外部漏洩事故を起こしつつも、原因を徹底的に究明し克服してきたこと、処理期限の順守にとどまらず一日も早く処理を完了させるために全力で取り組んでいくことなどを丁寧に説明しました。

今後も、このような機会も積極的に活用しながら、当社の取組を発信していきたいと考えています。



2. PCB処理安全監視委員会について

1月23日(金)に平成26年度第3回「豊田市PCB処理安全監視委員会」(主催:豊田市)が豊田事業所で開催されました。

今回の監視委員会では、冒頭、JESCOより法律改正に伴い事業所名は「中間貯蔵・環境安全事業株式会社 豊田PCB処理事業所」に変更になりましたが、事業内容は従来どおりPCB廃棄物の無害化処理のみであり、何ら変わらないことをご説明しました。委員会では、JESCOから漏洩防止活動の取り組み状況や操業状況について、ご報告しました。

また、環境省から、今後のPCB廃棄物の処理をどのように進めていくかを定めた処理基本計画の変更について説明がありました。また、JESCOからは、同基本計画の変更時に受けた豊田市からの要望に対する対応についてご説明しました。



3. 環境モニタリングについて

豊田PCB廃棄物処理施設では、豊田市との環境保全協定に基づき、事業に伴って排出される排気及び排水中にPCBなどが含まれていないことを確認するため、定期的(年4回)に環境モニタリングや排出モニタリングを実施しています。

この測定結果は3ヶ月ごとに豊田市へ報告すると共に、毎年豊田PCB処理事業のHPで公表しています。平成26年度の測定結果は3月に掲載予定です。

測定項目は、以下の通りです。

【環境モニタリング】

敷地境界での大気(PCB・ダイオキシン類・ベンゼン)、騒音・振動測定

【排出モニタリング】

各排気口等での排気(PCB・ダイオキシン類・ベンゼン)、最終放流口での排水(PCB・ダイオキシン類等)、熱媒ボイラーのばい煙測定



PCB処理事業紹介シリーズ 第12回

前回は非含浸物洗浄設備をご紹介しました。
今回は含浸物洗浄設備をご紹介します。

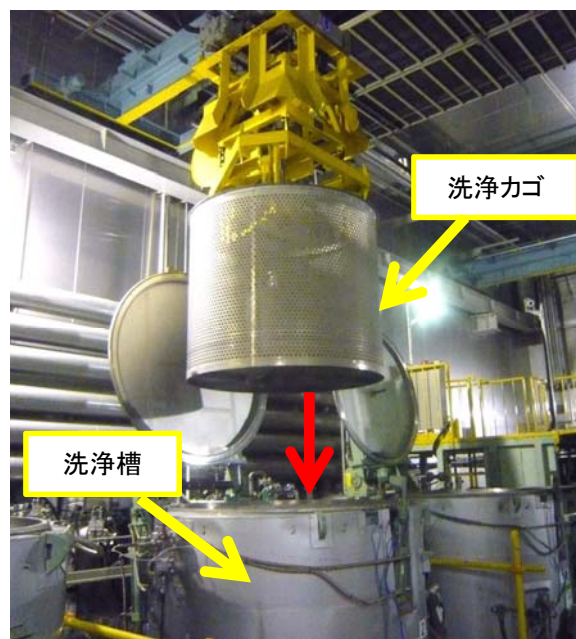
含浸物とは、コンデンサやトランスの内部部材として使用されている紙・木などPCB油が染み込むものことです。
この含浸物を洗浄する設備が攪拌洗浄設備及び真空加熱分離炉です。
このうち、攪拌洗浄設備をご紹介します。

洗浄工程は次の通りです。

- ①解体・切断された含浸物を洗浄カゴに入れます
- ②搬送装置で洗浄カゴごと洗浄槽へ投入
- ③蓋をして密閉
- ④洗浄液を入れ、カゴを回転させて洗浄
- ⑤洗浄液を排出し、高速回転で洗浄液を取り除く

この洗浄工程を、洗浄液を入れ替えて、含浸物の種類等により3回～15回行います。

洗浄終了後に後工程の真空加熱処理にて加熱乾燥させて次の工程に移します。(真空加熱処理は次号でご紹介します)



デジ丸

問い合わせ先



アザラシのピーちゃん

中間貯蔵・環境安全事業株式会社(JESCO) 豊田PCB処理事業所 0565-25-3110

【豊田PCB処理事業HP】 <http://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/index.html>